



一般社団法人日本フードサービス協会

JFニュースレター

2015. 10. 28

加工肉等に対するIARC（国際がん研究機関）の発表に関する報道について

WHO（世界保健機関）が加工肉等に発がん性があるとする研究結果を公表したとの報道がありますが、報道は一面的であり、会員のおかれては冷静な対応をお願いします。

1. WHOの下部機構であるIARC（国際がん研究機関）は、26日、加工肉を「ヒトに対して発がん性がある」、red meat（報道は赤肉と訳していますが、牛肉、豚肉、羊肉などを指し、日本語でいう霜降り肉の対義語ではありません）を「ヒトに対しておそらく発がん性がある」に分類すると発表した、との報道がされましたが、この情報には注意が必要です。
2. IARCの分類は、「発がん性を示す根拠があるかどうか」を重視しており、ハザードの毒性影響の強さやばく露量が及ぼす影響（定量的な評価）はあまり考慮されていません。
一方で、肉は重要な栄養源としてのメリットがあることを認めています。
3. 今回の評価をもって、「食肉や加工肉はリスクが高い」と捉えることは適切ではありません。食品のヒトの健康への影響については、リスク評価機関における十分なデータに基づいたリスク評価を待たなければなりません。
4. 日本の食品安全委員会は、「健康な食生活を送っていくためには、様々な情報に振り回されず、多くの種類の食品をバランスの良く食べることが大切です」としており、会員事業者におかれては冷静な対応が必要です。協会においても、報道機関等からの問い合わせに対しては、冷静な報道をお願いしています。

（注）IARCの発表に対して、食品安全委員会が公式Facebookで見解を発表しています。

内容は、食の安全・安心財団のホームページで確認出来ます。<http://anan-zaidan.or.jp>

※本ニュースレターは、情報共有を図るため、JF会員にお送りしています。

この件については、JFと食の安全・安心財団が連携して情報の収集に努めています。

お問い合わせはJF事務局：関川・田村（03-5403-1060）、財団事務局：中村（03-5403-1064）をお願いします。